

○東京藝術大学美術学部等教員の任期更新時の再任評価実施要項

〔平成18年9月14日〕
教授会決定

改正 平成18年11月9日 平成20年9月11日
平成25年5月9日 平成26年6月12日
平成29年9月28日 令和3年9月28日

(趣旨)

第1条 この実施要項は、東京藝術大学における大学教員の任期に関する規則第7条の規定に基づき、美術学部（大学院美術研究科及び大学美術館を含む。）等の教員にかかる任期更新時の再任評価（以下「再任評価」という。）の実施に関し、評価基準、評価項目及び評価の実施手順等の必要な事項を定める。

(評価基準)

第2条 研究業績、教育実績、大学運営上の貢献及び社会への貢献の領域ごとの評価及び総合評価の基準は、別紙1のとおりとする。

(再任評価項目等)

第3条 評価項目は、別紙2のとおりとする。

(講師、准教授、教授の再任評価の実施手順)

第4条 講師、准教授、教授の再任評価の実施手順は、次のとおりとする。

- (1) 教員は、任期の付されている期間の活動状況を基に業績調書（別紙2）を作成し、任期満了の1年5月前までに学部長に提出する。
- (2) 学部長は、人事委員会に対して、再任評価調書（別紙1）に基づき、業績調書を審査し、再任の可否を審議させる。
- (3) 人事委員会は審議結果を1年4月前までに学部長へ報告する。
- (4) 学部長は、人事委員会からの報告により再任を否とされた者について、再任審査小委員会を設置し、審査を付託する。
- (5) 学部長は、学部の再任評価の状況を再任評価報告書としてまとめ、1年2月前までに学長へ報告する。なお、学部の再任評価において、再任を否とされた者については、その理由を同報告書に記載するものとする。

(助手、助教の再任評価の実施手順)

第5条 本条第2項に該当する者以外の者の再任評価の実施手順は、第4条の規定に準ずるものとする。

2 3年以内の任期が付されている助手、助教の再任評価の実施手順は、次のとおりとする。

- (1) 教員は、東京藝術大学年俸制教員の業績評価の実施要項（以下「業績評価の実施要項」という。）に規定する業績目標管理調書（別紙様式2）を、毎年通知に従い学部長へ提出し、年俸制教員の業績評価を受ける。
- (2) 学部長は、任期満了の1年2月前までに、更新希望の有無を確認するものとする。
- (3) 学部長は、再任評価にあたり人事委員会に対して、資料として、業績評価の実施要項に規定する年俸制教員の業績評価結果が記載された業績目標管理調書（別紙様式2）を提供する。

- (4) 人事委員会は、審議結果を任期満了の1年前以前の直近の教授会前までに学部長へ報告する。(再任を否とする者については、その理由を報告書にまとめるものとする。)
- (5) 学部長は、学部の再任評価の状況を再任評価報告書としてまとめ、任期が満了する日の1年前以前の直近の教育研究評議会までに学長へ報告する。

附 則

この要項は、平成18年9月14日から施行する。

附 則

この要項は、平成18年11月9日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年9月11日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年5月9日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年6月12日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年9月28日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年9月28日から施行する。

再任評価調書

氏名：（評価を受ける者）

1. 領域評価

(1) 研究業績

		発表数等	A	B	C	備考
創作活動等						
著書、発表論文等						
展覧会企画（主担当・副担当）						
その他（ ）						
（評価基準） A：研究業績が優れている B：研究業績が水準に達している C：努力を要する						

(2) 教育実績

		科目・学生数等	A	B	C	備考
担当授業科目	学部					
	大学院					
担当学生数	修士					
	博士					
学位授与数	修士					
	博士					
その他（ ）						
（評価基準） A：教育実績が優れている B：教育実績が水準に達している C：努力を要する						

(3) 大学運営上の貢献

		委員会等数	A	B	C	備考
委員会等活動	全学					
	学部					
その他（ ）						
（評価基準） A：大学運営に大いに貢献している B：大学運営に貢献している C：大学運営への関与が少ない X：評価対象外とする						

(4) 社会貢献

	活動数等	A	B	C	備 考
教育活動					
研究活動					
地域社会・国際活動					
共同研究・受託研究					
その他 ()					
(評価基準)					
A：上記の活動を積極的に行っている					
B：上記の活動を行っている					
C：上記の活動が不足している					

※1 別紙2業績調書の履歴事項のうち、「経歴」欄において、評価対象期間中に役職（副学長、学部長、副学部長、学内共同利用施設の長 等）の記載がある場合、本紙においては、(3)大学運営上の貢献の「その他」欄に分類して、領域評価に加味するものとする。

※2 別紙2業績調書の履歴事項のうち、「特許」欄、「賞罰」欄において評価対象期間中に該当がある場合、本紙においてはその内容により(1)研究業績、(2)教育実績、(3)大学運営上の貢献、(4)社会貢献のうち、いずれかの「その他」欄に分類して、領域評価に加味するものとする。

※3 別紙2業績調書の(5)その他に記載がある場合は、本紙においては、その内容により(1)研究業績、(2)教育実績、(3)大学運営上の貢献、(4)社会貢献のうち、いずれかの「その他」欄に分類して、領域評価に加味するものとする。

※4 評価結果に関し、特に必要があると思われる場合は、別紙に所見をとりまとめ、添付することができる。

2. 再任評価基準

次に掲げる者は、再任評価基準に達した者とする。

(教授、准教授、講師)

- ① 領域評価において、「A」が1つ以上ある者
- ② 領域評価において、「B」が3つ以上ある者

(助教)

- ① 領域評価において、「A」が1つ以上ある者
- ② 領域評価において、「B」が2つ以上ある者

(助手)

領域評価において、「A」又は「B」が1つ以上ある者

※ 助教、助手については(3)大学運営上の貢献について、「X. 評価対象外」とすることができる。

業 績 調 書

履歴 年 月 日現在

氏名	漢字・原語	
	カナ	
	ローマ字	
生年月日		年 月 日
性別		
所属	機関・学部等	東京芸術大学
	学科・研究室等	
職名		
出身	大学院・研究科等	年
	学校・専攻等	年
学位		
連絡先	住所	
	電話番号	
	FAX番号	
電子メールアドレス		
科学研究費研究者番号		
使用する外国語		
経歴		
特許		年:
賞罰		年:
所属学会		

(1) 研究業績

① 現在の研究課題	課題名:			
	個人研究・共同研究の別			
	研究期間:			
② 創作活動等(発表、フィールドワーク等)	活動期間又は発表年月	概 要		
	～			
	～			
	～			
	～			
③ 著書、発表論文等	単著、共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要

※ 研究業績で、創作活動や研究活動が複数年の長期に渡る場合は、その理由を記載すること。

④ 展覧会企画 (大学美術館等)	主担当・副 担当の区 別	展覧会名	期 間	場 所	
	主・副		~		
	主・副		~		
	主・副		~		
	主・副		~		
⑤ 海外研究活動のための 渡航回数	2週間未満: 回				
	2週間以上: 回				
⑥ 海外での学会への出席 回数及び発表回数	所要経費の主たる負担者			出席	発表
				回	回

※ 所要経費の主たる負担者欄には、主催者、外国機関、文部科学省、日本学術振興会、その他政府機関、所属機関、財団等(寄附金を含む。)、自費などを記載すること。

(2)教育実績

① 担当授業科目	学 部											
	大学院											
年 度												計
② 担当学生数	修 士											人
	博 士											人
③ 学位授与数	修 士											人
	博 士											人
④ 作品・論文第一副査数(課程博士)												人
⑤ 副査数(課程博士)												人
⑥ 論文博士担当数	主査											人
	審査委員長											人
	副査											人
⑦ 外国人留学生受入数												人
⑧ その他(教育手法、教材 の作成・改善等)												

(3)大学運営上の貢献

	委員会等名称	期 間	
① 全学及び学部の委員会 等活動		~	年間
② その他(ワーキング、学 内プロジェクト等)		~	年間

(4)社会貢献

① 教育活動		
② 研究活動(学会、展覧会の審 査員等を含む。)		
③ 地域社会・国際活動		
④ 共同研究 及び受託研 究の実績	テーマ	
	依頼者等	
	研究期間	
⑤ 共同研究 等実施希 望	テーマ	
	実施形態	
	産学連携協力 可能形態	

(5)その他

--	--